令和6年度 河合町総合計画策定審議会 第1回会議
会議録（概要）

日 時：令和6年11月13日（水）10時から12時

場 所：役場3階第6会議室

出席者：下記のとおり

●河合町総合計画策定審議会委員 （敬称略：五十音順）

	氏 名	団体・職名
1	岩崎 勝重	公募委員
2	岡田 康則	河合町議会 議員
3	梶原 良雄	公募委員
4	坂本 博道	河合町議会 議員
5	杉山 晋平	天理大学社会教育学科 准教授
6	高岡 宏芳	河合町総代・自治会長会 会長
7	中山 智子	大和大学白鳳短期大学部 学長
8	福本 優子	河合町教育委員会 委員
9	堀内 秀悟	河合町都市計画審議会 委員
10	村田 雅信	公募委員

●河合町

副町長	佐藤 壮浩
総務部 部長	上村 卓也
政策調整課 課長	岡田 健太郎
政策調整課 課長補佐	林 嘉明
政策調整課 主事	浦西 泰輔

会議要旨：下記のとおり

1 開会

2 委員の委嘱

3 委員紹介

4 町長挨拶

- ・町長は他の公務で欠席のため、副町長が代読

5 審議会会長、副会長の選任

- ・会長に中山委員、副会長に杉山委員が就任

6 副町長から会長に諮問書提出

7 策定スケジュールについて

- ・事務局より説明（資料4）

委員意見
<ul style="list-style-type: none">● 策定までの期間が短いので、テンポよく進める必要がある。● 審議の状況によって、スケジュールの変更等も柔軟に対応してはどうか。 （事務局）基本的には令和7年度から計画施行を目標に進めたい。審議会での意見等は随時反映させていく。

8 総合計画（人口ビジョン）について

- ・事務局より説明（資料5第1編）

委員意見
<ul style="list-style-type: none">● 人口の自然減少は大きくなってきているが、社会減少数は縮小傾向にある。● いわゆる旧村（一小校区）では、ある程度集合住宅ができたり、子ども世代が戻ってきて2世代・3世代の世帯も多くなったり、人口減に歯止めがかかっているのではないか。

- ニュータウンの方では、出ていったらそのまま人口減につながるものが多く、空き家になってしまうことも多いので、空き家の有効活用も進めていくべきである。
- 人口の増加要因や転入してきた理由等を詳しく分析することにより、政策展開に活用していくべきである。
- 将来人口フレームのパターン3では、施策展開により純移動率が将来にわたり均衡するとなっているが、どんな施策が重要であるかを議論し検証、評価していくべきである。

(事務局) 本審議会でも、人口改善のアイデア等についてはしっかりと議論し、それを計画に反映させていきたい。総合計画策定後も進捗管理を行い、その中で施策が人口にどのような影響を与えているかの議論も行っていきたい。

- 財政の分析について、経常収支比率の記載がないので、厳しい財政状況を知ってもらうためにも記載してはどうか。

(事務局) 経常収支比率の内容や動きについては、住民の方に広く周知できていない部分があるので、今後わかりやすい形で広報していきたい。

- 河合町全体での分析になっているが、旧村と新興住宅地では人口の動きが違う。分けて分析することも必要である。
- 過去の推計よりも早いスピードで少子化が進んでいる。現状分析を行い、その変化に沿った人口フレームの設定が必要である。
- 産業を分析する上で、西大和イオンが閉店したことは町にとって大きな変化なので留意が必要である
- 歳出額が多い年があるが、特別な要因な場合は理由の記載があるとよい。

9 総合計画について

・事務局より説明 (資料5第2編)

委員意見

- 少子高齢化や各施設の老朽化などマイナス面はあるが、逆に強みもある。馬見丘陵公園、大阪へのアクセスの良さ、西大和学園や白鳳短期大学部、商業施設、医療施設、運動公園も多数あり、健康寿命も高い。計画を達成するためには、これらを活用し、実際の、具体的に考えていく必要が

ある。

- 近年、各自治体では駅周辺の開発が進んでいる。河合町にも駅があり、周辺を有効に開発していくべきである。河合町の今持っている資産で、投資を呼び込める事業を具体的に行うことで町が活性化していく。
- 住民の町行政に対する関心度が低下し、自治会離れが生じている。特にニュータウンでは自治会への加入者が減る傾向が見られる。ニュータウン開発当初は、例えば住環境に関する行政上の課題が多く、町側との協議も頻繁に行われていた。しかし、そんなに大きな課題がみられない現状では、住民が課題解決のために町の職員話す機会もほぼない。
- このような状況の中、役場と地域住民がコラボするような施策、両者を結びつけるような施策を展開すべきである。例えば、もう行われなくなったが町民体育大会は非常に盛り上がった。
- 河合愛 AI 構想の「教育の河合」は今計画でも変更する必要はない。
- その他、現在も継続中で力を入れてきた施策も同様である。
- 子育て支援に有効な施策として設置された認定こども園について、転入人口増加に対する効果はあったのか分析すべきである。
- 総合計画を策定するにあたっては、全体を見ながら前向きに考えていくべきである。
- 転入者へのアンケートで、河合町を選んだ理由が「子育てしやすいまちづくり」は0である。子育て支援の施策を充実させていくべきである。
- 町財政は厳しい状況が続いており、基本方針として産業誘致による税収増を目指すべきである。
- 基本方針7については、フレーズとしては理想的であるが、具体性に欠ける。河合町で産業の育成が出来るのか。ブランド化できる製品はあるのか。
- 河合町はこれまでも素晴らしい施策をたくさん行っている。それらを紹介する内容があるとよい。
- 馬見丘陵公園が河合町にも属していることが認識されていない。広陵町にあると思われている。高齢者は健康維持のためにウォーキングを行う方が多く、馬見丘陵公園は最適な場所であり、PRすれば居住者も増えると思う。広陵町に負けずに積極的にPRをすべきである。
- 文化会館まほろばホールについても同様。音響設備が非常に優れている

にも関わらず利用率が低迷している。上牧町のペガサスホールは利用率が高いと聞くと、まほろばホールももっとPRすべきである。

- 河合愛 AI 構想は構想と言うより実施計画に近いもので、教育に関する方針や施策、ファシリティマネジメントに関する方針や施策を中心にまとめられており、行政に関するすべての分野がカバーされておらず全体的なバランスを欠いた総合計画であった。
- 総合計画はすべての分野をカバーすべきと考えるが、分野を絞った方が具体的な意見が出やすいと思う。

10 その他

- ・ 町ホームページにて議事録を公開する
- ・ 次回の日程調整

11 閉会